

研究者名：井上 宗則（景観デザイン専攻 准教授）
研究課題名：鹿児島県奄美群島における「相撲空間」の研究
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：令和5年度～令和7年度

【研究概要】

本研究は、いかにして地域固有の文化が空間化されるのかという根源的な問いのもと、今後のまちづくりの検討に有用な知見を探求するものである。具体的には、鹿児島県奄美群島を対象に、土俵を中心に形成された「相撲空間」を集落の構成要素として位置付け、その特性を明らかにすることを試みる。奄美群島は、集落ごとに土俵があるといわれるほど、相撲が集落固有の文化として根付いている地域である。これらの土俵は、年に一度開かれる豊年祭に合わせてその都度仮設されてきたが、1960年頃から土俵の常設化が進められ、集落内に空間的な位置を占める存在になった。本研究は、こうした状況を地域固有の文化の空間化として捉え、相撲空間の分析・類型化を通して、その構成的特徴を解明するものである。そして、研究成果をとりまとめたデータベースを構築・公開することで、今後の奄美群島のまちづくりに貢献することを目指す。